

公益財団法人 松園尚己記念財団

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会ボランティア活動支援事業 参加者レポート

「東京 2020 オリンピック大会ボランティア活動への参加について」

匿名希望 会社員

担当:サッカー/会場内事務所（横浜国際総合競技場）

初めに、今回のオリンピックボランティアに参加させていただきましたことは、私にとってとても貴重な経験となりましたことに感謝いたします。

まず、オリンピックボランティアを志すきっかけとしましては、日本で行われるオリンピックのボランティアとして大会運営に携われることは、私の小さいころからの夢でした。1964年に行われた東京オリンピックのことを祖母、父、母からよく聞いていたからです。今度、日本でオリンピックが行われる時は、ボランティアとして参加したいと思っていました。そして世界各国からこられた選手の方々を笑顔でむかえ、選手一人一人の最高の2020の思い出を少しでもアシストできればと思いました。そして大会を肌で感じ、皆様と一緒に盛りあげたい、私もこの大きな舞台で皆様と力をあわせて同じ喜びをともに感じ、感動したいと思いました。

その後、ボランティアの応募、決定がきまり、だんだんと自分の気持ちもオリンピックにむけ高まっていきました。2019年5月26日に東京の有楽町の近くでオリエンテーションに参加させていただきました。希望した時間だけでも、オリエンテーションでは100名以上の方が参加されて、10名程度のグループで自己紹介をしたり、新聞を筒状にしたりして一番高く積み上げられるのかをグループで話し合い作ったりして楽しい体験でした。その後、ユニフォームの試着などもあり、参加者もわくわくしていました。

そして、2019年12月6日、フィールドキャスト共通研修を旧選手村のところで受講しました。ここではボランティアとしての心構えなどを習いました。

いよいよ2020年になり、日本中でオリンピックムードが高まり、半年をきってオリンピックまであと〇〇日といわれるようになったころ、想像もしていなかった感染症で、あっという間にマスク不足から緊急事態宣言まで出るようになりました。

そのころから、ボランティアへの連絡も少なめになり、オリンピックも1年延期となりました。開き始めた花がっぼんでしまったような、そんな感覚でした。

オリンピックの延期による選手の方々の調整や努力は、想像を絶するものであったことと思います。それから、オリンピックはどうなるのだろうと思いながらも手話やウォーキングを続けていました。1年がめぐり、今年、オリンピックが開かれることが決定し、オリンピックまであと2週間となった時に無観客となり、ボランティアのお仕事はもうないだろうと思っていたころ、参加できるとの連絡がありました。

日にちが あれよあれよと過ぎていく中、予定の日程がきまり、いよいよオリンピックが開催されました。

あっという間に出発の日となりましたが、前日からの台風に悩まされ、またもや参加できないのでは？という思いがよぎりました。あやうく関東直撃とならず、予定通り出発。ユニフォームとボ

ランティアの証明カードを受け取りに東京の六本木の近くの旧オークラホテルへいきました。いただいたユニフォームを着ると「あっ、いよいよだ」という気持ちになり、身がひき締まりました。

「オリンピックにきたんだ」という気持ちがあふれてきました。

会場につくと、警備とかもとても厳しくて、これは世界大会なんだと思いました。入場する前に同じユニフォームのたくさんの方とすれ違い、無観客の中でも仲間がたくさんいるんだなと思いました。入場すると担当のところのとりまとめの方が待っていてくださり、会場内を案内してくださいました。ボランティアの内容とかも熱心に教えてくださりよくしていただいたので、親近感があってすぐにうちとけることができました。

ボランティアは、事務所の中のお仕事で、お聞きしたことを逐一伝言するお仕事で、とてもやりがいがありました。同じボランティアの方々もスポーツが好きで集められた方だったので、すぐにうちとけることができました。皆さんとても優しく接してくださいました。

私の初日は、日本戦ということもあり、選手の方々の気迫、試合が始まる前の緊張感が事務所にまで伝わってきて、こちらにも目に見えないドキドキ感がありました。

「あっ、これがオリンピックなんだ」と思いました。ボランティアをしながら、みんなの「がんばれ！」という気持ちが一つになり、みんなが一体化しているように感じられました。結果、日本の勝利！みんなで笑顔で喜びあいました。勝った喜びで興奮もあり、選手が無事に帰ってから帰途についたら、1時30分を過ぎていました。

7月31日、準々決勝は、韓国 VS メキシコでした。夕方、小学生が育てられた朝顔の水やりをしました。たくさんの朝顔にびっくりしました。夕食はお弁当とアイスクリームをもらって、おいしくいただきました。無観客ならではの、ボールを蹴る音や選手の方々の声も時折して、なんだか臨場感がありました。同じ日、日本戦もありましたが、延長戦で1点差で負けてしまったので、私たちも気分が上がらないまま帰途につきました。

8月7日決勝の日。ブラジル VS イタリア戦。モニターからみる選手の方々のボールさばき、パスの速さに驚きの連続でした。試合後メダル授与式があり、皆さんの勇姿にみんなで拍手をしました。

今回のボランティアへ参加させていただき、私の人生で思い出に残る活動となりました。このような貴重な経験ができたことにとても感謝しています。

ボールをぎりぎりまで追い続け、走り続け、体をはって守る選手の姿を見て、勇気もらい、「何事もあきらめないことやチャンスは自分の力でつかむこと」を改めて学びました。ボランティアの方々からも協力すること、助け合うことの大切さを学びました。この貴重な経験をもとに地元のボランティアでも楽しく活気のある活動ができるよう推進していきたいと思えます。